

第13回アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 大臣級会合の結果概要について

平成24年11月27日

内閣府 原子力政策担当室

1. 開催日時:2012年11月24日(土) 9:20-17:45
(11月23日(金)に上級行政官会合を開催。)
2. 開催場所:インドネシア ジャカルタ ホテル・ルメリディアン
3. 主催者
内閣府、原子力委員会、インドネシア原子力庁(BATAN)
4. 参加国:12カ国(日本、オーストラリア、バングラデシュ、中国、カザフスタン、インドネシア、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム)(各国の代表は添付資料1を参照)
5. 我が国の主な出席者:
白 眞勲 内閣府副大臣
近藤 駿介 原子力委員会委員長
尾本 彰 原子力委員会委員
町 末男 FNCA日本コーディネータ
中野 節 内閣府大臣官房審議官
中村 雅人 内閣府参事官(原子力担当) 他



第13回FNCA大臣級会合 各国政府代表

6. 会議の概要:

東アジア等の大臣級代表(大臣3ヵ国、副大臣2ヵ国、原子力行政機関長他)が一堂に会し、これまでのFNCAにおける放射線利用及び原子力発電に関する様々な取組の成果が大臣級へ報告され、今後の活動に対する指示が決議案として取りまとめられた。

また円卓討議においては、これまでのFNCAの活動を改めて振り返り、今後、特に福島事故後に期待されるFNCAの役割や活動について、議論を行った。(アジェンダ添付資料2)

(1)開会挨拶

会合開会にあたり、ホスト国インドネシアより、ハッタ研究技術担当大臣が開会挨拶を行ない、各国参加者に対して歓迎の辞とともに、地域協力におけるFNCAの重要性について述べた。続いて共同議長である日本の白内閣府副大臣が挨拶(添付資料3)を行い、直近の日本の原子力政策の検討状況について紹介し、今後も我が国の原子力安全等の高度な技術と福島第一原子力発電所事故の教訓を関係国と共有していく旨、述べられた。

(2)カントリーレポート

各国代表より、各国におけるFNCA活動を含む放射線利用の幅広い成果や、今後の研究開発計画、エネルギー政策、原子力発電の導入・新增設計画、基盤整備の計画等が紹介された。今後のFNCAにおける更なる協力への期待が示されるとともに、放射線利用の更なる発展のためには、その社会経済的な有用性についての国民の正確な理解が必要であり、成果の発信の在り方や情報発信が重要との認識が参加国で共有された。

このため、各国より報告されたカントリーレポートを公開する方針とすることで合意された。

(3)活動報告

町日本コーディネータから、FNCAの下で進められている10件のプロジェクトの活動報告があり、農業・医療分野における放射線利用に関する成果やアジアにおける原子力安全確保に寄与する基盤整備に関する活動成果が紹介された。また、前日の上級行政官会合にて各国より報告された人材育成機関のネットワーク化の成果についてもとりまとめて報告された。

また、今年7月に開催された「原子力発電のための基盤整備に向けた検討パネル」第4回会合結果について、パネル会合議長の尾本原子力委員会委員より報告があり、福島の原子力事故後、各国の関心が高い福島事故の教訓、立地評価手法に関する知見、原子力賠償制度や緊急時対応等に関する情報の共有が行われ、今後は緊急時対応における地域間協力の可能性について検討の希望があったことが報告された。

(4)円卓討議

「FNCAの役割」という議題に基づき、これまでの FNCA 活動の成果を改めて振り返りつつ、今後、特に福島事故後に期待されるFNCAの役割やあり方について、議論を行った。複数の国のご意見や要望は以下のとおり。

- ・FNCA活動、特に放射線利用に係る成果は、各国の社会経済的な発展に寄与している。更なる発展のために、FNCAの成果や一般的な放射線利用の有益性に関する社会経済的な評価を行うことが有用である。一方で、社会経済的な評価にあたっては、放射線利用以外の要因も大きく、寄与率をどう設定するか難しい。
- ・FNCAの放射線利用における成果をより広く周知するため、WEB サイトの活用や他の国際的枠組みとの効果的な連携が重要である。
- ・特に福島事故後、国民への正しい知識の周知と情報公開による透明性の確保が重要である。日本に対して、事故から得られた知見の共有を継続するよう期待したい。

各国によるFNCAへの高い評価を受け、白副大臣より、FNCA活動の有益性について、今後積極的に発信し、FNCA活動が更に発展できるよう働きかけたい旨、述べられた。

7. 決議の概要（決議全文は添付資料4及び5を参照）

以上の議論を踏まえ、以下のような決議を採択した。

- ・アジア地域の最高水準の原子力安全を確かなものとするべく、事故時の緊急時対応、広報およびリスクコミュニケーションなど、事故で得られた経験と教訓を共有する。
- ・FNCAの活動成果の活用と可視性の向上を図るため、放射線利用部門とエンドユーザーのネットワークの構築を奨励する。
- ・放射線利用の社会経済的効果の評価を実施するために各国で協力する。
- ・持続的な活動のため、FNCA参加国の担当大臣に対して、各プロジェクトの活動や成果の可視性を確保する。

次回大臣級会合は来年11月ないしは12月に日本で開催される予定。

以上

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)大臣級会合 各国代表出席者

①オーストラリア

The Hon. Ms. Nadia Levin (ナディア・レビン)
原子力科学技術機構(ANSTO)政府・国際・対外関係統括マネージャー

②バングラデシュ

The Hon. Mr. Yeafesh OSMAN (イエフェシュ・オスマン)
科学技術省(MOST)大臣

③中 国

The Hon. Mr. Chen Qiufa (チェン・チュウファ)
国家原子能機構(CAEA) 主任

④インドネシア

The Hon. Prof. Dr. Gusti Muhammad HATTA (グスティ・ムハンマド・ハッタ)
研究技術担当大臣

⑤カザフスタン

The Hon. Dr. Shaiakhmet Bakievich SHIGANAKOV (シャイアフメット・バケビッチ・シガナコフ)
原子力庁 科学技術開発部 部長

⑥韓 国

The Hon. Dr. YANG Sung-Kwang (ヤン・ソングァン)
教育科学技術部(MEST)研究開発政策室室長

⑦マレーシア

The Hon. Dr. Maximus Johnity Ongkili (マキシマス・ジョニティ・オンキリ)
科学技術革新省 大臣

⑧モンゴル

The Hon. Prof. Dr. Manlaijav GUN-AAJAV (マンライジャフ・グンアジャフ)
原子力庁(NEA) 原子力・放射線規制局 局長

⑨フィリピン

The Hon. Dr. Carol M. YOROBÉ (キャロル・M・ヨロベ)
科学技術省(DOST)副大臣

⑩タ イ

The Hon. Nirut KUNNAWAT (ニルト・クンナワット)
科学技術省(MOST)大臣顧問

⑪ベトナム

The Hon. Prof. Dr. VUONG Huu Tan (ヴオン・フー・タン)
放射線・原子力安全庁(VARANS)長官

第13回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）大臣級会合
プログラム

日 程 : 2012年11月24日(土)
場 所 : インドネシア ジャカルタ (ホテル ル メリディアン ジャカルタ)
主催者 : 内閣府、原子力委員会、インドネシア原子力庁 (B A T A N)
会合共同議長 : 白眞勲 内閣府副大臣(日本)
ガスティ・モハマド・ハッタ 研究技術担当大臣(インドネシア)
使用言語 : 英語

9:00 - 9:20 受付

9:20 - 9:30 **記念写真撮影** (プレスオープン)

9:30 - 10:00 セッション 1: 開会 (プレスオープン) (30分)

議長：ガスティ・モハマド・ハッタ 研究技術担当大臣（インドネシア）

- 開会・歓迎挨拶
ガスティ・モハマト・ハッタ 研究技術担当大臣（インドネシア）（５分）
- 会合共同議長挨拶（５分）
白眞勲 内閣府副大臣（日本）
- 参加者紹介（１５分）
- 上級行政官会合結果報告（５分）
中野節 内閣府官房審議官 上級行政官会合議長（日本）

10:00 - 11:00 セッション 2: カントリーレポート (60分)

議長：白眞勲 内閣府副大臣（日本）

1. オーストラリア 2. バングラデシュ 3. 中国 4. インドネシア 5. 日本
6. カザフスタン 7. 韓国 8. マレーシア 9. モンゴル 10. フィリピン 11. タイ
12. ベトナム
(12か国×5分)

11:00 - 11:30 <コーヒーズブレイク> (30分)

11:30 - 12:10 セッション 3: FNCA 活動の報告と将来計画 (40分)

議長： ヴォン・フー・タン 放射線・原子力安全庁長官（ベトナム）

- 町末男FNCAコーディネーター（日本）

- FNCAにおける人材育成の活動
町末男 FNCAコーディネーター（日本）

12:10 - 13:50 <昼食会>（内閣府主催）

13:50 - 14:10 セッション 3（続き）：FNCA 活動の報告と将来計画（20分）

- 議長：イエフェシュ・オスマン 科学技術省大臣（バングラデシュ）
- 原子力発電のための基盤整備に向けた取組に関する検討パネル会合報告
（第3フェーズ、原子力基盤の国内整備）
尾本彰 原子力委員会委員（日本）、第4回パネル会合議長

14:10 - 14:55 セッション 4：円卓討議 “FNCAの役割”（45分）

- 議長：マキシマス・ジョニティ・オンキリ 科学技術革新省大臣（マレーシア）
- リードスピーチ（5分）
白眞勲 内閣府副大臣（日本）
 - FNCA 参加国のコメント
 - 討議

14:55 - 15:25 <コーヒーブレイク>（30分）

15:25 - 16:05 セッション5：決議及び会合サマリに関する討議（40分）

- 議長：キャロル・M・ヨロベ 科学技術省 副大臣（フィリピン）
- 決議採択（20分）
近藤駿介 原子力委員会委員長（日本）
 - 会合サマリ確認（20分）
近藤駿介 原子力委員会委員長（日本）

16:05 - 16:15 <ブレイク 記者会見の準備>（10分）

16:15 - 16:35 セッション6：閉会セッション（プレスオープン）（20分）

- 議長：ガスティ・モハマド・ハッタ 研究技術担当大臣（インドネシア）
- 会合のまとめ（5分）
近藤駿介 原子力委員会委員長（日本）
 - 閉会挨拶（5分）
ガスティ・モハマド・ハッタ 研究技術担当大臣（インドネシア）
 - 記者会見

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)第13回大臣級会合
白副大臣 会合共同議長挨拶 (平成24年11月24日)

(冒頭:歓迎の辞)

御列席の大臣閣下、各国代表、そして全てのご出席の皆様、アジア原子力協力フォーラム(FNCA)第13回大臣級会合の開催に当たり、日本政府を代表し、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、アジア各地から FNCA 第13回大臣級会合にご出席いただき感謝申し上げます。また、インドネシア政府には、今回の会合を我が国と共催され、ホスト国として心の行き届いた準備と昨夕のレセプションをはじめ心温まる歓迎をいただき、誠にありがたく、厚くお礼申し上げます。

(原子力を取り巻く環境)

昨年3月11日に東京電力福島第一原発の事故を経験した我が国は、国民的議論を実施し、今後のエネルギー政策を白紙から見直してまいりました。

その結果、今年9月、「エネルギー・環境会議」において国際的なエネルギー情勢などの将来展望を慎重に見極めながら不断に検証、見直しを行いつつ、2030年代に原発に依存しない社会を目指し、あらゆる政策資源を投入して、グリーンエネルギーへのシフトと経済成長の確保を両立させることを基本方針とするエネルギー戦略を決定しました。その過程において安全性が確認された原発は、重要電源として活用することとしています。

経済発展著しいアジア地域においても、原子力発電は、温暖化対策やエネルギー保障の観点から重要なエネルギー源であり、活用の増大を目指す国やこれからこれを導入することを計画している国が少なくありません。

我が国は引き続き、国際社会との関係にも十分に配慮しながら、原子力の平和的利用の担保と安全性の確保に取り組んでまいります。昨年原発事故の経験と教訓を世界に共有することにより、世界の原子力安全の向上に貢献していくことは我が国の果たすべき責務であり、諸外国が我が国の原子力技術を活用したいと希望する場合には、相手国の事情や意向を踏まえつつ、世界最高水準の安全性を有する技術を提供していきます。

（FNCA の取組）

私は、FNCA が大臣級会合のリーダーシップのもと、過去10年以上にわたり、放射線のユニークな特性を生かして、農業分野や医療分野における課題の解決に取り組み、また放射線安全、研究用原子炉、人材育成など幅広い分野において、参加各国が共同して多くのプロジェクト活動を企画・推進し、それぞれが着実な成果を生み出してきたことを高く評価します。

一方、原子力発電に関しては、FNCA 各国がパネル会合を通じて、各国に共通する課題である市民との相互理解や人材育成の在り方などについて経験交流や情報共有を行い、また、安全確保の在り方を検討する際に重要な地震や津波等の自然災害の知見、そして先の福島第一原発事故の教訓を共有してきたことを評価します。福島事故から学んだ教訓を関係各国の皆様と共有し、アジア地域における安全強化を図ることは、極めて重要な取組であり、当事者として我が国は最大限の貢献をなすべきだと考えます。

FNCA は、原子力利用に関わる中長期にわたって取り組むべき課題に対して、アジア地域各国が協力し、その解決を図るための重要な仕組みであると考えています。そこで、今回は、FNCA が相互裨益の観点から今後、どのような協力体制で、どのようなテーマを取り扱うことが参加国の皆様の期待するところであるか、ご意見を伺うことを楽しみにしています。

（結語）

日本は、今後ともアジア諸国が原子力科学技術の研究、開発及び利用を通じて発展を追求していくことに協力していきたいと考えています。各国の社会経済的発展と国民の福祉に寄与する原子力分野の活動が FNCA の取組により、一層効果的なものとなることを期待して私の開会挨拶と致します。

御清聴ありがとうございました。

（了）

Forum for Nuclear Cooperation in Asia (FNCA)
13th Ministerial Level Meeting
Resolution

We, the Heads of Delegations of FNCA member countries, the Commonwealth of Australia, the People's Republic of Bangladesh, the People's Republic of China, the Republic of Indonesia, Japan, the Republic of Kazakhstan, the Republic of Korea, Malaysia, Mongolia, the Republic of the Philippines, the Kingdom of Thailand, and the Socialist Republic of Viet Nam,

1. Recognizing that nuclear power is regarded in many Asian countries as one of the important energy sources to respond to increasing electricity demand for development, ensuring energy security and addressing climate change,
2. Recognizing that plans to introduce the first nuclear power plant or expand the number of nuclear power plants still continue after the accident at the TEPCO's Fukushima Daiichi Nuclear Power Station (hereafter "the Fukushima accident"),
3. Recognizing that efforts to strengthen nuclear safety have been promoted and implemented by international society, including the IAEA, as well as nuclear power operating countries, based on the experience and lessons learned from the Fukushima accident,
4. Welcoming the willingness of countries which have nuclear power programs to share experiences, knowledge, technology and best practices to ensure nuclear safety at the request of countries interested in developing nuclear power programs, especially Japan's contribution in sharing its knowledge and experience, including information on the Fukushima accident,
5. Recalling that based on the resolution adopted at the 12th Ministerial Level Meeting held in Tokyo in December 2011, threats by natural hazards, emergency response measures and other related matters were actively discussed at the FNCA Study Panel held in Bangkok in July 2012, and that the Study Panel stressed the importance of enhancing nuclear infrastructure development,
6. Taking note that each FNCA member country is building a network of relevant organizations for nuclear human resource development (HRD), based on the recognition that HRD is essential in promoting the application of radiation

technology and peaceful uses of nuclear energy, and enhancing nuclear safety, security and non-proliferation,

7. Stressing that cooperation among FNCA member countries is important for stable supply of medical radioisotopes (RI), since many reactors around the world used to supply RI are ageing, and there is a risk of RI supply shortage,
8. Recognizing further that the research reactors in the Asian region should be effectively utilized to respond to the increase in demand for a variety of radiation applications in agriculture, industry, science, and health care, and that safety of the research reactors must be secured, including safe management of spent nuclear fuel and radioactive waste,
9. Recalling that radiation applications in the agricultural area are an effective means for controlling aggravated environmental problems while addressing food security to respond to increasing global population, and recognizing the importance of R&D projects in the FNCA which contribute to the increase of crop yields by environmentally-friendly means,
10. Recognizing the benefits of the FNCA's unique, voluntary and mutual process of self-assessment and peer review of the safety of nuclear research reactors.
11. Recognizing that the FNCA is a highly effective mechanism for member countries to share their technology and knowledge, and contributes to further sustainable development, with its synergistic mechanism which brings about new outcomes,

Decided to work continuously toward:

- 1) Continuing to share the experience and lessons learned from the Fukushima accident, especially by the FNCA study panel, and further cooperating for nuclear infrastructure development among FNCA member countries in order to ensure the highest level of nuclear safety and better public acceptability towards nuclear energy in Asian region, such as considering the possibility of cooperation in the region for emergency preparedness and response, public information and risk communication,

- 2) Realizing effective nuclear HRD in the Asian region based on the needs for human resources identified by each FNCA member country's network, not only through ANTEP activities but also through collaboration with other international frameworks,
- 3) Establishing the regional research reactor network in order to promote coordination of RI production among FNCA member countries aiming at stable supply of RI, as well as to share information on design features of research reactors and on RI production in FNCA member countries,
- 4) Appreciating that the Radiation Oncology project is establishing cancer therapy protocols, which take into consideration Asian regional characteristics of habitus, prevalence, and economy, and that the protocols are now regarded as a standard in some FNCA member countries and have been utilized for education and training courses in IAEA, and expecting that the protocols will be further developed to be more effective in the future,
- 5) Encouraging the creation of networks between the nuclear applications sector and end-users for the practical use and enhanced visibility of FNCA achievements,
- 6) Collaborating in the conduct of assessments of the socio-economic impact of nuclear applications,
- 7) Striving for producing synergistic outcomes through the promotion of the cooperation between FNCA projects in different fields, such as R&D on radiation sterilization for bio-fertilizer production, development of plant growth promoter, and mutation breeding by using radiation, with a view to securing stable food supply by increasing crop yield in environmentally-friendly ways,
- 8) Enhancing nuclear safety effectively in Asia by sharing good practices and knowledge through FNCA projects such as nuclear safety management systems and radiation safety and radioactive waste management,
- 9) Assuring the visibility of project activities and outcomes to relevant ministers in member countries to sustain ongoing support.

第 13 回アジア原子力協力フォーラム (FNCA) 大臣級会合 決議 (仮訳)

我々、FNCA メンバー12 カ国（オーストラリア連邦、バングラデシュ人民共和国、中華人民共和国、インドネシア共和国、日本、カザフスタン共和国、大韓民国、マレーシア、モンゴル国、フィリピン共和国、タイ王国、およびベトナム社会主義共和国）の代表は、

1. エネルギー安定供給と気候変動の観点から、多くのアジアの国において、増大する電力需要に有効な手段として、原子力発電が見なされていることを認識し、
2. 東電福島第一原子力発電所の事故（以後、「福島第一原子力発電所事故」という）後も引き続き原子力発電の導入計画や増設計画が進められていることを認識し、
3. 福島第一原子力発電所事故の知見と教訓を踏まえて、既原子力発電導入国や IAEA など国際社会の場において原子力安全強化の取組が行われていることを認識し、
4. 原子力安全を確保するため、原子力プログラム策定に関心を有する国の要望に応じ、原子力プログラムを有する国が、経験、知識、技術及びベストプラクティスを共有することを歓迎し、特に、福島第一原子力発電所事故に関する情報を含む知識と経験の共有による日本の貢献を期待し、
5. 2011 年 12 月に東京で開催された第 12 回大臣級会合の決議に基づき、今年 7 月にバンコクで開催されたパネル会合において、自然災害の脅威や緊急時対応等の議論が活発に行われ、今後とも原子力発電の基盤整備に関する活動が重要であると報告されたことを思い起こし、
6. アジア地域の放射線利用、原子力エネルギーの平和的利用、原子力安全、核不拡散・核セキュリティの強化には、人材育成が必要不可欠であるとの観点から、FNCA 参加国が人材育成に関連する国内の各機関がネットワークを構築していることに注目し、

7. 世界的に医療用ラジオアイソトープ（RI）を供給する製造炉が老朽化し、RI の供給不足のリスクがあることから、RI 安定供給のために FNCA 参加国が協力することの重要性を強調し、
8. アジアにおいては、農業や工業、医療等の様々な分野における放射線利用の需要増加のための既存の研究炉の効果的な活用及び、アジア地域における使用済核燃料、放射性廃棄物の管理を含む研究炉に関する安全性の確保が重要であることをさらに認識し、
9. 今後、世界的な人口増加に伴う食料確保に対応する一方で、農業分野における放射線利用が環境問題の深刻化を抑制する有効な手段であることを想起し、FNCA の活動において進められている、環境へ配慮した手法により収穫量の増加に寄与する技術の研究開発プロジェクトが重要であることを認識し、
10. FNCA に特徴的な、自主、相互に進める研究炉の安全性に関する自己評価およびピアレビューの有益性を認識し、
11. FNCA が、参加国の技術や知見を共有し、新たな成果を生み出す相乗効果的な仕組みにより、アジア地域の更なる持続可能な発展に寄与する効果的な枠組みであることを認識し、

以下の通り継続して活動することを決定した。

- 1) 事故時の緊急時対応、広報およびリスクコミュニケーションに関するアジア地域における協力の可能性を検討するなど、アジア地域の最高水準の原子力安全を確かなものとするべく、また原子力に対する国民の理解増進を図るべく、引き続き、特にパネル会合において、福島第一原子力発電所事故で得られた経験と教訓を共有し、FNCA 参加国間の原子力基盤整備のための一層の協力を進める。
- 2) FNCA 参加各国の人材育成ネットワークで把握した人材育成のニーズに基づいて ANTEP や他の国際的枠組みにおける協力を通して、アジア地域における効果的な人材育成を実現する。

- 3) FNCA 参加国の研究炉の特性、および RI 製造に関する情報交換を行うとともに、RI の安定供給のため FNCA 参加国間の RI 製造の調整を促すことを目的とした地域の研究炉ネットワーク構築に向けて取り組む。
- 4) 放射線治療プロジェクトにおいては、アジア地域の特徴的な体格や罹患率、経済を考慮したガンの治療法の確立を目指し、一部の FNCA 参加国では既に標準的な治療法として認知され、IAEA の教育研修コースに活用されていることを評価するとともに、今後、更に効果的な治療法として確立することを期待する。
- 5) FNCA の活動成果の活用と可視性の向上を図るため、放射線利用部門とエンドユーザーのネットワークの構築を奨励する。
- 6) 放射線利用の社会経済的効果の評価を実施するために協力する。
- 7) 環境へ配慮した手法を用いつつ、収穫量を増加し、安定的な食料を確保する観点から、バイオ肥料の放射線滅菌の研究開発、放射線を利用した成長促進剤の開発や品種改良など、異なる分野の連携を促進し、相乗効果を生み出せるよう努力する。
- 8) 原子力安全マネジメントシステムや放射性廃棄物管理に関わる FNCA プロジェクトを通して、良好事例や知見を共有し、効果的にアジアの原子力安全を強化する。
- 9) 持続的な活動のため、FNCA 参加国の担当大臣に対して、各プロジェクトの活動や成果の可視性を確保する。